



青森市街 遠望 八甲田スカイライン 雲谷峠から 2002.9.22. 青森 三内丸山遺跡

17.1. 三内丸山遺跡 点景 2002. 秋

17.2. 仲秋の名月 三内丸山遺跡 お月見の会

9. 21. 「仲秋の名月」三内丸山縄文遺跡での「お月見会」を楽しんだ。

今年は 夏ねぷたの時にも訪問したので2回目。でも夏とは全く印象がちがう。多くの見学者でにぎわっていた夏からは落ち着いた雰囲気にかわっていました。

遺跡の中心 大型住居等が復元されている南側に広がる草原にはすすきやワタスゲが咲き、その後方には頭を雲で覆われた八甲田大岳がどっしりと控えている。もう秋真っ只中。



三内丸山遺跡 縄文の道のあたり



三内丸山縄文遺跡での仲秋の名月 2002.9.21.

17. 1. 三内丸山遺跡 点景 2002. 秋



南の端 墓の道が遺跡の中心へ続くあたりより 三内丸山遺跡集落の中心部 2002. 9. 21

草原に寝転んで、草越しに遺跡を眺める。

人家のない森に囲まれた広い空間で ついぞ ゆっくりとみあげぬ雲の流れ。

実におおらかでゆったりとした時の流れに身を置く楽しみ いつきても いいですね・・・

転免許試験所の大きなコンクリートの建物がみえている。これも森で隠れてしまえば もっといいのですが・・・

でも 野球場が建設が進められ、観覧席まで出来かかっていたのに 本当によく保存できたものだ。



2002 年度発掘調査の見学会 西側の墓の道

楽しみにしていた今年の発掘調査域の見学会。西の墓の道が
一帯何処まで伸びているのか？

またストントンサークルはさらに次々とみつまっているとい
うが・・・

約 30 名ほどの集団で、昨年から引き続き調査が続けられてい

る西側の「墓の道」を中心とした墓域や西端の丘の上の竪穴住居・墓域 そして こけから調査される
掘建て柱の発見された北の斜面を案内してもらった。

いつもながら 発掘のその現場にたつてまじかに 説明が聞けるのはうれしい。

縄文をもうそのまま体験しているような気分になる。



発掘されたストーン サークル



発掘調査が続く 西側の墓の道の墓域



墓の道はまだまだのびており、墓の道の片側にしか見つけていなかった墓が道の反対側でもみつかったとか・・・ ストーンサークルもさらに見つけている。

三内丸山遺跡の中心へ向ってこの幅の広い墓の道が東からと同時にまた南からも続いている。

まだ この縄文の墓の道 そして集落の中心にある大きな広場で何が行われたのか・・・よくわからない。でも 自分達の先祖が見守るこの大きな墓の道を多くの人が列をなして祭りをやりながら通ったに違いない。

ふっと 6本柱が頭をかすめ、諏訪の「御柱」の祭りがうかんできた。きっとそんな祭りでなかったか・・・

すすきの咲く丘の上へと続く道を歩きながら そんなイメージを広げていました。11月には今年の調査説明会がおこなわれ、結果が報告されるという。楽しみにしている。



西の端 発掘の続く丘の上へ



西端の丘の上 竪穴住居発掘現場



北の端の斜面 掘建て柱が発掘された場所

30人ほどで始まった見学会 最後には遺跡を訪れていたほかの人達も加わって倍に膨らんでいる。本当に オープンな雰囲気今年も満足。一度 雪に埋まった三内丸山遺跡をもみてみたいが・・・

2002. 9. 21. 秋の三内丸山遺跡で
by M. Nakanishi

17. 2. 三内丸山縄文遺跡 お月見コンサート 2002.9.21.



今年から 青森三内丸山遺跡・岩手御所野遺跡・秋田大湯ストーンサークルの三つの縄文遺跡で、日替わりで縄文フォーラムとお月見コンサートが行われるオープンな会になり、今までとは打って変わって大きな会になりました。

いつもながら オープンな会で 旧知の人 新しい人に出会えるのが楽しみ。



青森 三内丸山遺跡 収穫祭 フォーラムとお月見コンサート 2002.9.21.

以前 新聞かTVで 津軽海峡を『いかだ』で渡る実践をしたと聞きましたが、そのグループで北海道 茅部町の縄文遺跡のボランティア グループ。パワーあふれる人達でした。この遺跡も三内丸山に匹敵する遺跡で 町長さんが頭の上に写真をかざして話された縄文の子供の足型や縄文人の脳。そして 木村県知事も加わって 津軽海峡も含め、北海道・北東北連係の話
久しぶりに『goo goo』の話でスカッとしました。
この三内丸山遺跡のオープンな運動が次々と広がるのは本当にうれしい事です。



縄文時代本当にお月見があったのだろうか……
暦の語源は「ヒ(日)ヨミ(読み)」
『日の出と日の入』 『月の出と月の入り』があるよ
うちに 新月と満月 どちらがスタートなか……
「縄文のこの巨大遺跡の真中に大きな広場と そこを
中心に 東西・南北に伸びる巨大な道 どう考えても
異常です。 何の為の道なのか……」

「死者を親しみの中に敬い 争いのない縄文の
心」を静かな口調で話される山形芸工大赤坂憲雄
教授。
縄文の静かな森の中で、今の世相とダブらせなが
ら 久しぶりに聞く「縄文の心」。

21 世紀は『心の時代』・『オープン化の時代』と持てはやされるのとは逆に空ろさが目に付く空しい中
にいるような気がしてならない。

民族紛争も『憎しみが憎しみを生み、戦争が戦争を生む』事

『形だけの open 化に名を借りた秘密主義の横行』口ではダメな事みんな知っていても 『それを乗り越
え 踏み出す勇気・智恵』がない。

それを生み出す若さがほしい。

理念・洞察力の貧困さが今ほど目に付く事はない。

そんなことを感じています。

月明かりの中 縄文の森にそびえる六本柱越しに月を眺めながら 現代と縄文をだぶらせていました。

17. 三内丸山遺跡 秋 点 描

17.1. 三内丸山遺跡 点 景 2002. 秋

17.2. 仲秋の名月 三内丸山遺跡 お月見の会

【完】